

Once upon a time, a group of five thieves came to a small village called Hananoki.

When the thieves passed along the northern river and got to the edge of the village, they saw children and cows playing together and enjoying the pleasant breeze.

Shortly after the five of them hid in the bushes, the head of the thieves said,

"Alright, I will be hiding here, so you guys go into the village and scout ahead. When you find rich houses there, see if you can break their windows, if they keep dogs and such. It hasn't been that long since you guys became thieves, so be careful not to make any mistakes."

"Yes, sir!"

And so the four thieves went into the Hananoki Village.



Having seen the four thieves leave, the head thief sat down on a tuft of grass by the river. This thief had been a real thief for so many years. Until just recently, before he took on his four apprentices, he had been stealing all alone.

After a short while, one of his apprentices, Kamaemon, returned.

Kamaemon had been an ironmonger until yesterday, making his living by making cauldrons and pots, as well as fixing holes in kettles.

"Hey, boss!"

"How was it?"

"I've found a great house. There was a huge house along the west river. The rice pot there turned out to be huge so they can cook lots of rice at once!"



むかし、はなのきむら という ちいさな むらに、
ごにんぐみの めすびとたちが やってきました。
めすびとたちが、きたの かわに そって むらの
いりぐちまで くと、そこは みどりの のはらで、
こどもたちと かちくの うしが、
すがすがしい かぜを うけながら あそんでいました。

ごにんが、たかい やぶの はえた しげみに みをかくすと、
そこで めすびとたちの かしらが いいました。

「それでは、おれは ここで かくれて まっているから、
おまえらは むらの なかに はいって、ようすを
さぐってこい。かねの ありそうな いえを みつけたら、
その いえの どのまどが やぶれそうか、いぬが いるか
などを、くわしく しらべてこい。おまえらは まだ、
めすびとに なってから ひが あさいんだ。
へまを しないように きをつけるんだぞ」
『へい、かしら！』

こうして、よにんの めすびとの でしたちは、
はなのきむらに はいりこみました。



かしらは、でしたちが いってしまうと、かわばたの くさの
うえに どかっと こしを おろしました。この かしらは、
ずっと まえから、ほんとうの めすびとでした。
つい きのう、よにんの でしが はいるまで、
ずっと ひとりで めすみを おこなっていました。

すこし して、でしの『かまえもん』が かえってきました。
かまえもんは、きのうまで かなものやを していて、
かまや なべを つくったり、ちゃがまに あいた あなを
ふさいだりして くらしをたてて いました。

「かしら！かしら！」

「おう、どうだった？」

「それが、いい いえを みつけたんです。

にしの かわぞいに、おおきな いえが ありましてね。

そこの めしたきがま が、いちどに やまほど

めしが たける、おおがま だったんですよ！」

